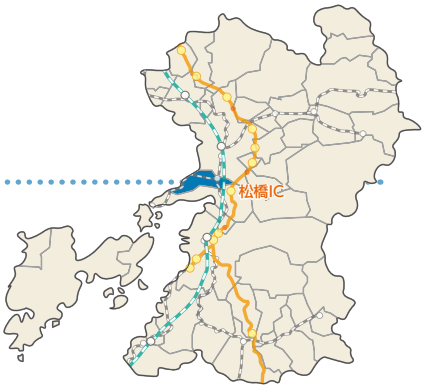
宇土市（ウトシ）

元松 茂樹 市長

宇土市では平成28年熊本地震で損壊した市庁舎の再建工事が本格的にスタートし、これまで取り組んできた復旧・復興事業も最終局面を迎えました。暗い話題が多かった中で、正代関をはじめとした本市出身スポーツ選手らの目覚ましい活躍は、多くの市民に勇気と希望を与えてくれました。少子高齢社会が進展する中、次代を担う子供たちが「宇土に住み続けたい」「宇土に住んでみたい」「宇土に戻りたい」と思えるようなまちにするためにも、行政だけでなく、地域住民や企業と一緒になって課題解決に取り組んでいきます。

寄付御礼

- **贈呈式開催**（首長出席、寄付額10万円以上）
- **感謝状贈呈**
- **地公体広報誌掲載**
- **ＨＰ掲載**
- 視察受入
- 功労者表彰推薦
- 紺綬褒章推薦
- その他



人口

総人口……36,027人
男……17,183人
女……18,844人
世帯数…13,836世帯

面積

総面積……74.30km²
農用地……18.31km²(24.6%)
森　林……29.02km²(39.1%)
宅　地……8.17km²(11.0%)

産業構造

第1次産業……3,523(3.2%)
第2次産業…44,150(39.5%)
第3次産業…64,173(57.4%)
生産総額:百万円

人口構成比

15歳未満……13.6%
15～64歳……55.9%
65歳以上……30.4%

教育機関

小学校……7校
中学校……4校
高等学校・高専……1校
大学・専門学校他…—

高等教育機関

熊本県立
宇土高等学校・宇土中学校
中高一貫教育校

交通アクセス

■宇土市役所まで
九州自動車道 松橋ICから……約8.1km
JR 宇土駅から……約1.4km
サクラマチクマモトから……約15.3km

※データは令和3年6月発行、熊本県市町村要覧をもとに作成しております。

宇土市まち・ひと・しごと創生推進計画

〈SDGs〉関連するゴール

未来へ“輝くふるさと”宇土

基本目標1 新しいひとの流れをつくる

地域資源を活かした観光振興により交流人口を拡大し、農業・漁業などを通じた市外者 との関係人口を創出するなど、市への移住の流れと人口定着を図ります。

基本目標2 切れ目のない子育て支援

結婚から出産子育てまでの切れ目のない子育て支援と、特色ある教育環境を整備し、子育て世帯に選ばれる住みたい・住み続けたいまちづくりを目指します。

基本目標3 安定したしごとをつくる

地域資源を活かした特産品の開発・販売、新たな担い手を育成、地場産業の経営基盤の強化と創業・就労支援や企業誘致により安定した雇用の創出を目指します。

基本目標4 多様な主体による持続可能な社会づくり

市民との協働によるまちづくりや官民連携・広域連携を拡大し、戦略を動かすまちの原動力を活性化することで、市民が安心して住み続けられる暮らしをつくります。

▶▶▶ 宇土市

重点プロジェクト

宇土市ジュニアスポーツ応援プロジェクト ～スポーツで地域に活力を子どもたちに夢と目標を～

分類 教育

総事業費 10,000千円　　寄附目標額 —

計画期間 地域再生計画の認定の日…2020年7月3日～2025年3月31日

数値目標 ●全国大会出場団体及び個人 …… 年間20件
●全国大会での優勝 …… 年間1件

〈SDGs〉関連するゴール

ジュニアスポーツ応援補助金

市長に全国大会への出場を報告する選手たち

本市は、熊本地震において甚大な被害を受け、恐怖と先の見えない不安の中で、復旧、復興に取り組んでまいりました。このような状況で、本市出身のプロスポーツ選手の活躍は、市民だけでなく県民にも大きな感動と復興への活力を与えてくれました。また、これに続くスポーツで頑張る子どもたちの活躍も大きな元気を与えてくれました。

そこで、全国の舞台を目指し、夢や目標に向かって挑戦する子どもたちを後押しするため、また、大会出場に必要な多額の費用を捻出する保護者の負担を軽減し、家庭環境に関係なく、家庭への負担を気にすることなく、子どもたちが伸び伸びと夢や目標に挑戦できる環境づくりをしたいと考え、本プロジェクトを立ち上げました。

現在、新型コロナウイルスの影響でスポーツ活動にも大きな影響が出ており、大会の中止や延期、通常の練習においても制限が課せられ、満足な練習もできない状況にあります。

それでも、子どもたちには、努力することで自信を持ち、他人への思いやりや感謝することを経験し、全国で活躍できる人材の育成、ひいては、プロスポーツ選手の輩出に繋がることを目標に本プロジェクトを実施します。

なお、令和3年度において1,000千円の貴重な御寄附をいただき、全国大会24件91人・九州大会7件40人に対し、合計1,418千円の補助金を支給しており、内1件は全国大会で優勝を収めました。

重点プロジェクト

産業振興のための創業支援

分類 産業振興

総事業費 5,000千円　　寄附目標額 —

計画期間 地域再生計画の認定の日…2020年7月3日～2025年3月31日

数値目標 ●補助金を活用した年間創業者数 …… 5社

〈SDGs〉関連するゴール

夢叶う！創業支援プロジェクト

市の創業支援によりオープンした店舗

平成28年に発生した熊本地震において、市内各地では大きな揺れにより建物（事業所等）が傾くなどの被害が多く発生し、中には建物の解体を余儀なくされた事業所もありました。それら事業所のうち、後継者が不在等の理由により、やむを得ず廃業となった事業所もありました。

また、近年の市内小売関連の状況では、国道沿線上に、複数の郊外大型店舗が出店されたことにより、昔からあった市内中小事業所では来客数が減少した結果、売上高が減少するなど、特に個人経営への打撃が大きい結果となりました。

そこで、市内で新たに創業・開業を行う中小企業者に対し、創業・開業資金の一部を助成する制度として「創業支援プロジェクト」を創設しました。この創業支援プロジェクトを実施することにより、地域の新しい活力として創業者を迎え入れることで、地域全体が活性化し、地域としての魅力を創出することができると考えます。地域に魅力が出ることにより、市外からの移住者が増加することで、ひいては、移住・定住の促進につながる取組になると考えています。

▶▶▶ 宇土市

課題 1 宇土マリーナへ宿泊施設を誘致したい

宇土マリーナ

本市の西部に位置する宇土マリーナは、海洋性スポーツやレクリエーション活動を通じ、海に親しむ機会や地域住民の憩いの場として平成12年4月にオープンした施設です。周辺には「御輿来海岸」や「長部田海床路」といった、県内有数の風光明媚な観光地があるにもかかわらず、当該エリアには宿泊可能な施設がないのが課題です。宇土マリーナやその周辺に宿泊施設を整備、又は誘致することで、県外からの観光客を呼び込むことができ、観光振興のみならず、地域活性化や地場産業の発展に効果があると考えています。ぜひ力を貸してください。

課題 2 市の中心部に民間開発を誘導したい

人口減少、少子高齢化が進む中、都市機能を維持発展させるため、民間開発の可能性が考えられる地区の土地利用に係る調査研究を行っています。現在、国が地域高規格道路として整備を計画している「城塚IC」周辺エリアをはじめ、市の中心部を通る県道14号・ウキウキロード周辺エリアや都市計画道路北段原線周辺エリアといった、これから開発の可能性があるエリアへ、いかに民間開発を誘導するかが課題となっています。企業様のアイデアやノウハウのご提供をお願いします。

課題 3 「ウトブランド」の地元生産を確立したい

ウトブランド商品の「ウトパレット」

本市では「宇土市の旬を届ける実行協議会」が中心となり、地元で採れた新鮮な農水産物や、それらを加工し開発した商品を「ウトブランド」として展開しています。現在、地元企業では対応できない加工品については、市外の業者に発注をしており、生産コストの面でも不利な状況です。今後、民間事業者が取り組む商品開発や6次産業化を支援していきたい考えであり、加工まで含めた完全地元生産の実現は喫緊の課題と考えています。企業様のアイデアやノウハウのご提供をお願いします。

課題 4 地元産天然アサリのイメージ回復をしたい

本市は広大な干潟を有する有明海に面しており、県内でも有数の天然アサリの産地です。近年、アサリの漁獲量が減少していく中、地元漁協や県と一体となり、稚貝の保護や食外生物対策といった天然アサリの資源回復に向けた取組みを行ってきました。その結果、平成30年には、かつて盛んだった観光潮干狩りが20年ぶりに復活するまでに至りました。しかしながら、昨今のアサリ産地偽装問題が発覚し、問題の畜養場がない本市においても採貝業者への風評被害が及んでおり、イメージ回復が喫緊の課題となっています。

アサリの網袋設置の様子

課題5 業務多角化やネットビジネスを支援したい

農水産物の6次産業化を推進するにあたり、規格外の農産品を加工することで収入に結びつけるといったように、業務多角化による経営合理化や、インターネットを活用した販路拡大は必要不可欠です。令和3年度に、光ブロードバンド回線が市内全域に整備されました。本市では、民間事業者の持つアイデアやノウハウを活用し、農水産物の生産者やそれらを加工する小規模企業に対し、業務多角化やネットビジネスに対する支援を行いたいと考えています。ぜひご協力をお願いします。

課題6 高齢者の活躍の場を増やしたい

高齢者の引きこもりや社会からの孤立を防ぐため、ひとり暮らしの高齢者に、生きがいや社会的なつながりをつくる取組が必要不可欠です。例えば、一人暮らしの男性の家事力向上を支援するための取組や、子ども達と一緒にeスポーツ等を通じて交流を図るなど、高齢者が外に出て生きがいを感じながら暮らしていける社会をつくりたいと考えています。高齢者の活躍の場を増やすため、企業様のアイデアやノウハウのご提供をお願いします。

高齢者によるマルシェの開催

課題7 青少年のサードプレイスをつくりたい

写真は放課後子ども教室の様子

学校と家庭、それぞれの課題が複雑かつ多様化していく社会において、家庭でもなく、学校でもない、青少年の第3の居場所づくりが求められています。その役割も、青少年の好奇心を育む場所であったり、孤独や生活不安を解消できる場所であったりと様々で、世代や所属に縛られることなく、常に自由で、その場所にいることが心地よいと感じることができる、青少年のためのサードプレイスを、本市の実態に沿ったかたちでつくりたいと考えています。ぜひご支援をお願いします。

課題8 有害鳥獣による被害の防止対策を強化したい

本市ではイノシシをはじめとした有害鳥獣による農作物への被害が深刻な状況です。特にイノシシによる被害は年間を通して発生しており、出没範囲も拡大傾向にあります。これらの被害を防止するため、これまでも地元の猟友会と連携した捕獲等の取組のほか、農家に対して、侵入防止柵等の設置に関する補助を行ってきました。今後、より効果的な対策について、これまでと違った新たな視点から実証・研究を行い、有害鳥獣被害防止対策を強化したいと考えています。企業様のアイデアやノウハウのご提供をお願いします。

侵入防護柵設置の様子